

我流・音楽の編集とアーカイブス

1.目的

アナログ時代からのマスターやサブマスター・テープ及び各種のアナログの音楽素材をデジタル化にして編集と我流アーカイブスとする手法を試みる。

2.ハードとソフトウェアの選定

デジタル化してPCで行うために必要なハード、ソフトウェアを音質的コストパフォーマンスを選定条件として調査、確認をして次の通り決めた。

- ① PC内臓のディジタル変換等のサウンド・プロセッサーには音質的な不備を避けることができないので、外部プロセッサー機器をUSBで接続する
- ② プロ用のソフトウェア（プロツールズなど）は多機能且つ高価で素人用には適さない。
- ② オーディオ専門メーカーによる高音質配信の普及を目的にして商品化した、経済的なSE-U55GXとCarry on Musicのソフトウェアを選ぶ。

3.ソフトのインストールと接続

取説に従って一定の容量（CDフォーマットの場合、10MB/1minのメモリーを確保）を有するPCにインストールを行って、ハードウェアの接続を行う。

PCに接続して立ち上げUSBが機能するとSE-U55GXのインジケータは「緑色」になる。詳細は取説通りであり省略する

4.入力できる音声信号

Carry On Musicの「DISC」をクリックして、PC内または、ネット配信等でダウンロードした信号を再生、録音することができる。

Carry On Musicの「CD」をクリックすると、CDの再生と録音（ディジタル信号処理による編集、MP-3などへのコンヴァート、CD-Rなどへの録音等）ができる。

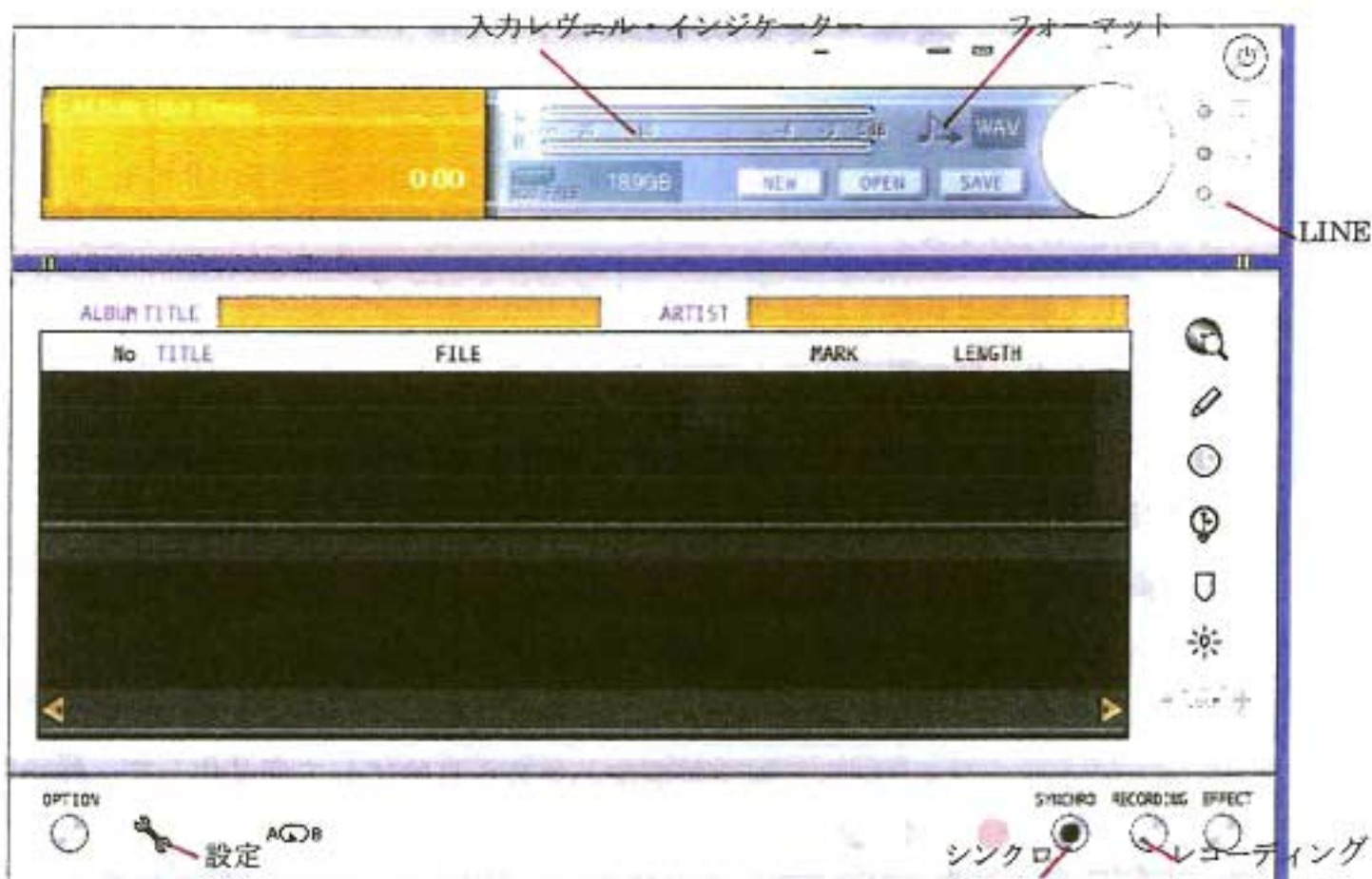
Carry On Musicの「LINE」を選べば、外部機器（チューナ、テープデッキ等のアナログ機器を接続して、高性能なA/D変換でディジタル処理が可能となる。

本システムは、古くからあるオープンテープなどのマスターテープまたは、サブマスターの音源をディジタル化して保存することを主目的として考えていく。

まずは、主目的とする、音源を2TR/15inch(38cm/sec)のオープンテープのアナログ信号のディジタル化を試みながら以下を進める。

5.Carry On Music を立ち上げる

Carry On Music を立ち上げると下図の操作パネルがディスプレイに表示される。



Carry On Music の操作パネル

6. Carry On Music の基本的な操作

- ① SE-55GX の INPUT Selector を「LINE」に切り替える。
- ② Carry On Music の「設定」をクリックして各種の設定を行う。



ライン入力録音タブ

- a.) 「ライン入力録音」タブを開き、保存のファイル形式を「WAVE」、サンプリング周波数を「44100Hz」、量子化を「16bit」(CDフォーマット)に設定する。



保存タブ

- b) 設定の「保存」タブを開き、保存先の設定とタイトル（または、アーティスト名等）のサブフォルダーを決め「OK」ボタンをクリックする。

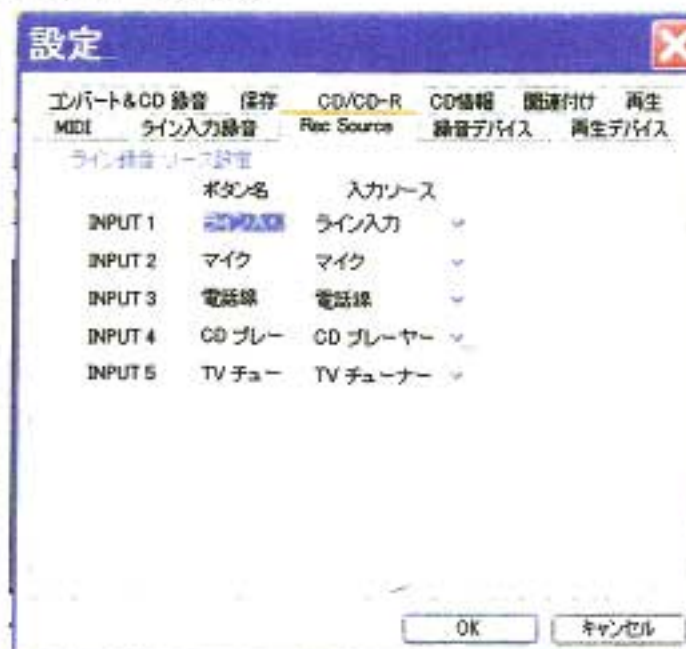
保存先のフォルダーにアルバム名やアーティスト名のサブフォルダーを作成して、ミュージックファイルを保存する。

「なし」は、サブフォルダーは作らないということとなる。

「Album」の設定は、アルバム名のついたサブフォルダーを作ることになる。

「Artist-Album」は、アーティスト名のついたサブフォルダーとなる。

- c) 設定から「Rec Source」のタブを開く。

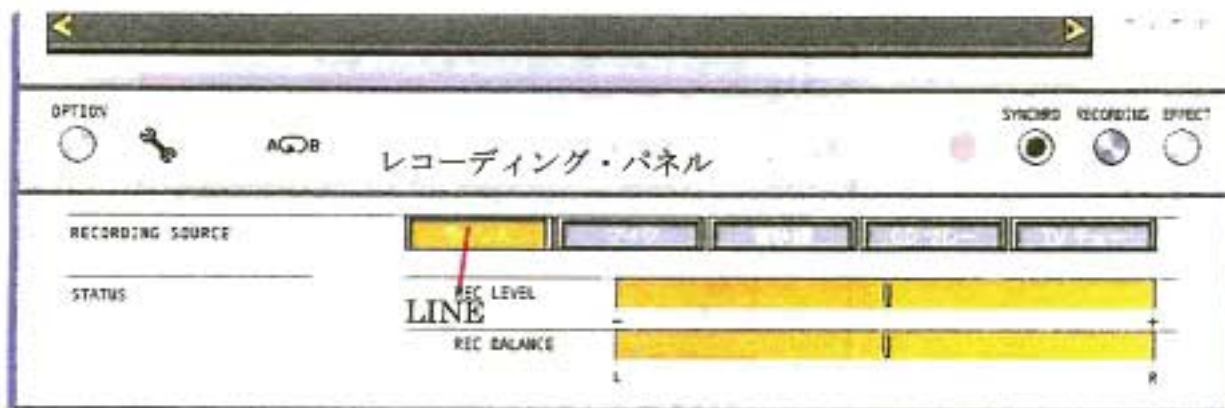


Rec Source タブ

- d) ライン録音ソースを設定。変更なければ「OK」をクリックする。

- ③ Carry On Music のレコーディング・サブパネルを開き、録音ソースを選択する。

今回は「LINE」とする。



レコーディング・サブパネル

録音レベルの設定はいずれもセンターとしておくことが望ましい。

- ④ 操作パネルの初期設定では、「SYNCHRO」機能が設定されており、インジケータが黄色になっている。(シンクロ機能とは、入力ソースに同期して録音をスタートさせる機能である)、実際の音楽では手動操作の方が利便性が高いので、これをクリックしてインジケータを消すことが必要である。
- ⑤ 入力レベルの調整を行う。

録音ボタンをクリックして、入力ソースの再生を始め、SE-U55GXの「INPUT LEVEL」でテープ等に基準信号があれば、0 VUの出力を-9 dB程度以下に合わせて、パネルのレベル・インジケータ確認しながら入力レベルの設定を行う。

レベル・インジケータのピーク値が一瞬でも赤色となるレベルではデジタル故に歪が増大して感知できるので、若干低めに設定する方が好ましい。(全録音後にレベルの補正が可能である)

- ⑥ Carry On Musicの「●」(録音)をクリックして、入力ソースの最初から再生を始めて録音を開始する直前で「Pause (一時停止)」または、「Play (再生)」をクリックしてPauseを解除して録音をスタートさせる。

7.編集

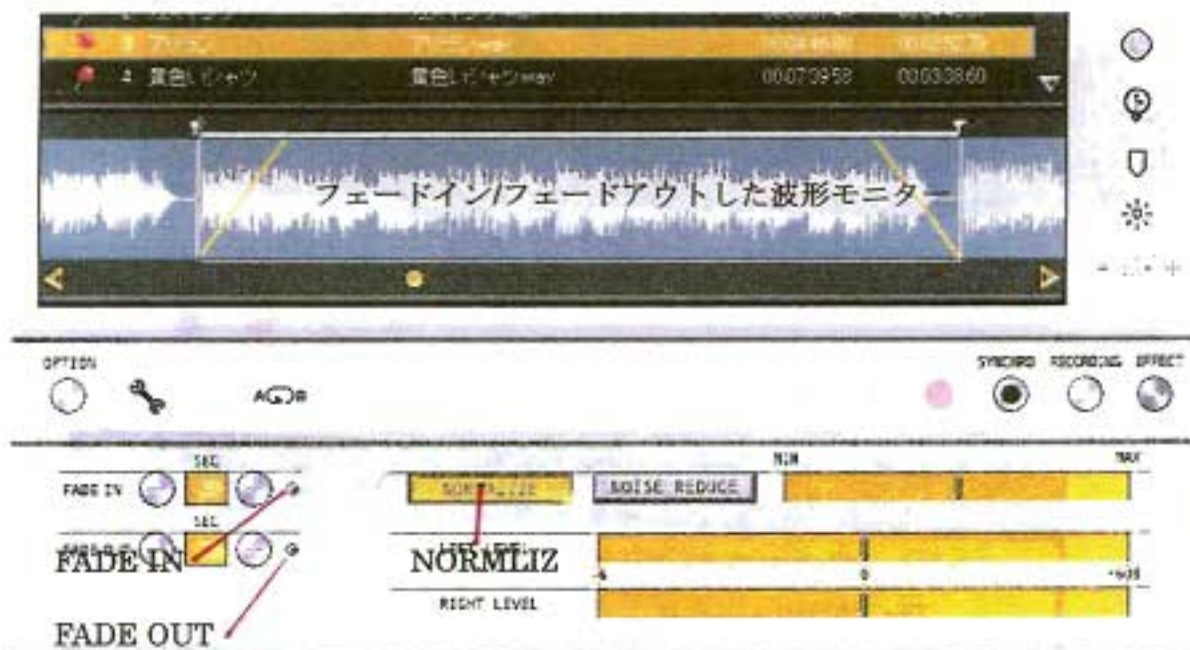
- ① 録音が終わると、「■」をクリックして終了する、Carry On Musicの音声波形モニターが表示され、「Zoom」の「+」及び「-」で波形の時間領域での拡大、縮小ができ、細かい設定が可能となる。
- ② 音声と波形をモニターしながら、楽曲の始めに「MARK」をクリックし録音した音を分割し、トラック区分、番号、タイムなどを記録する。
(下図は波形モニターの例を示す)
- ③ 不要な部分(ノイズや不要な楽曲など)をマーキングして(波形モニターがクレイ色となる)保存から除外することも出来る。



ファイルの分割した例

トラックの頭のマーク（必要とする楽曲は“赤色”）もクレイ色になる。

- ④ 「ALBUM TITLE」 をクリックして、アルバム・タイトルなどを入れる。（トラック番号や曲名などは後で入力できる）



EFFECT パネル

- ⑤ 「EFFECT」 をクリックしてエフェクト・パネルを出し、各楽曲編集の仕上げを行う。
- 「ノーマライズ」で録音レベルの自動補正を行う。（但し、録音レベルを高く設定して録音をした場合の補正は期待できない、また、この補正は全てに効く）
 - 雑音の除去、大きな瞬時の雑音や連続的に出る雑音が低減できる。（全トラックに効く）
 - 左右のレベル差の補正を左右のスライダーで補正をする。（全のトラックに効く）
 - 各楽曲に好みの時間でのフェードイン、フェードアウトを付加することが出来る。

8.データの保存

各編集を終えた録音データを好みのファイルに保存するために、設定の「保存」タブで保存先を確認し「SAVE」をクリックする。(SAVEするとEFFECTの効果ができる)

9.オリジナルCDの作成

① パネルの入力を「DISK」にして保存したファイルを読み出し、トラック毎のタイトル(曲名)を記入する。

トラックにカーソルを合わせて「プロパティ」をクリックして、「ミュージックファイル情報」タブを出し、トラックの曲名などをインプットする。



「プロパティ」で出したミュージックファイル情報タブ

② パネルの「CONVERT」をクリックして、パネルのフォーマットを繰り返してクリックして

「CDA」にする。

- ⑤ ディスクトレイに CD-R を入れて「●」をクリックして書込みを開始する。
- ⑥ パネルには全ての「総容量」と「総時間」が表示され、CD-R に書込みの進行状態が「%」で表示されてくる。
- ⑥ パネルに表示されたファイルは、消去したいファイルをカーソルでドラッグして、「消去」をクリックして消す。

以上
大林國彦